

# 経営比較分析表

佐賀県 大町町

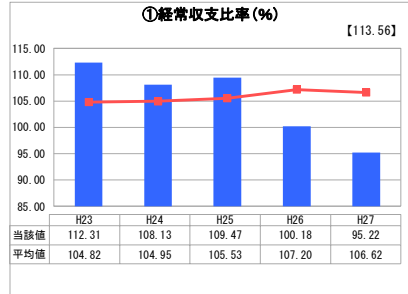
| 業務名       | 業種名         | 事業名    | 類似団体区分                         |
|-----------|-------------|--------|--------------------------------|
| 法適用       | 水道事業        | 末端給水事業 | A8                             |
| 資金不足比率(%) | 自己資本構成比率(%) | 普及率(%) | 1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円) |
| -         | 83.12       | 99.81  | 5,616                          |

| 人口(人)     | 面積(km <sup>2</sup> )     | 人口密度(人/km <sup>2</sup> )   |
|-----------|--------------------------|----------------------------|
| 6,936     | 11.50                    | 603.13                     |
| 現在給水人口(人) | 給水区域面積(km <sup>2</sup> ) | 給水人口密度(人/km <sup>2</sup> ) |
| 6,868     | 8.80                     | 780.45                     |

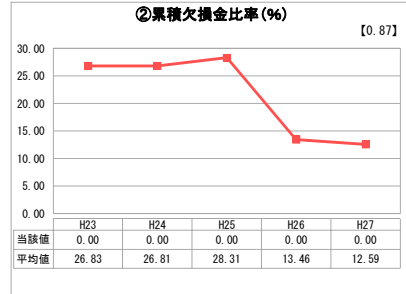
## グラフ凡例

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 【】 平成27年度全国平均

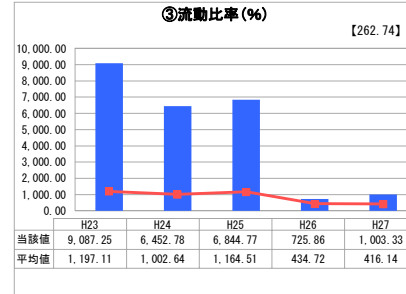
## 1. 経営の健全性・効率性



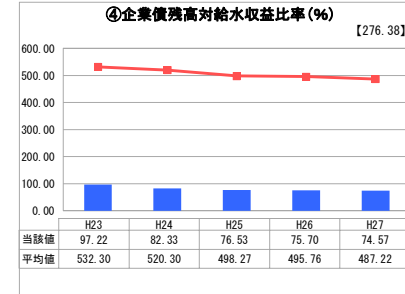
「経常損益」



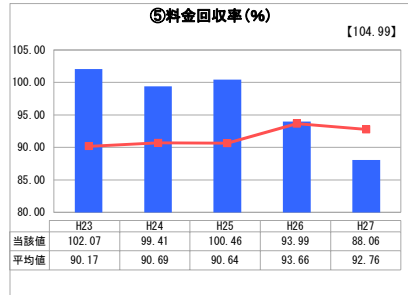
「累積欠損」



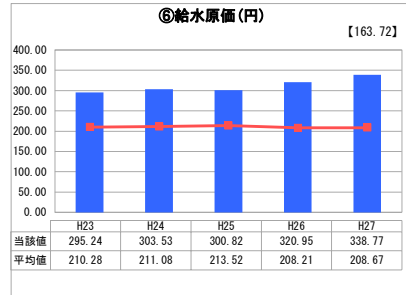
「支払能力」



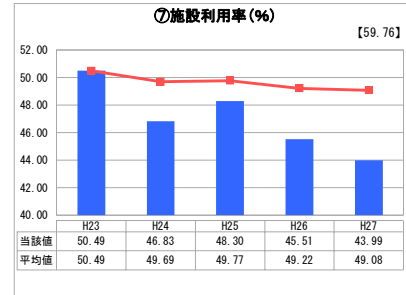
「債務残高」



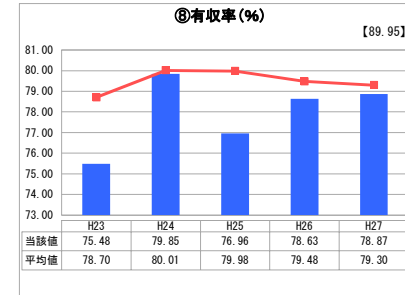
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

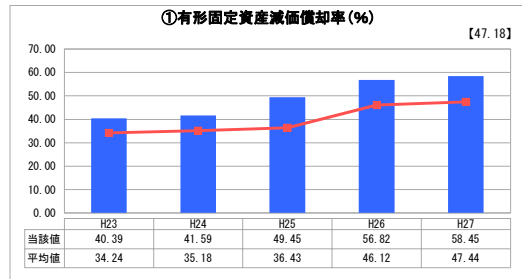


「施設の効率性」

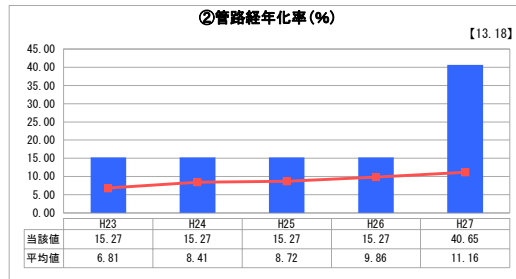


「供給した配水量の効率性」

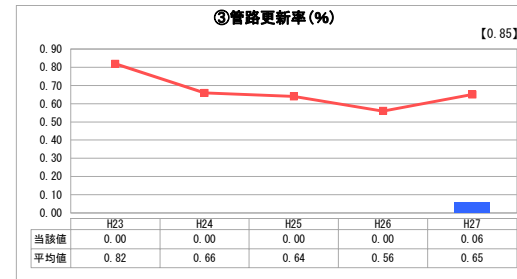
## 2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

経常収支比率が100%を下回っている要因として、給水収益の減と営業費用の増が考えられる。収益の減については、人口減少、節水機器の充実、節水意識によるものが要因と考えられ、施設利用率の減少にも影響している。費用については平成27年度より課長職給与を水道会計にて支出することになり、前年度と比べ支出の増となっている。

料金回収率が落ちている要因としては、分納締約後の不履行、無届転居等が考えられる。

今後、給水原価の減少や収益の向上が見込めない中ではあるが、確実な集金や、無届転居を防止し、収益の向上に努め、減少傾向にある受水費とともに民間による漏水調査を継続し、有収率の向上、費用抑制に努め、安定的な経営を行っていく。

### 2. 老朽化の状況について

管路経年化率の大幅な増については、管網図や資料の見直しから、現状に近い数値に訂正したため、大幅に増加しているように見えている(前年度以降の数値が誤りであった可能性が高い)しかし、高い数値であることは事実であるため、更新が必要である。耐震化を含めた管路更新を実施・計画しているが、財源不足が課題となり、経年劣化への対応には追い付いておらず、修繕での対応が現状である。

## 全体総括

前年度と比べ6,277千円給水収益は減少しており、職員の削減等では限界があるため、引き続き費用抑制、料金回収に努めなければならない。全国平均より大幅に低い有収率を少しでも上げ、収益を確保しながら、経年による老朽管の更新を早期実現したい。

※ 平成23年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年化率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。